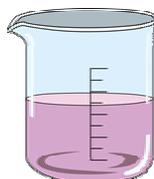


たより



第 12 号

平成 25 年度夏季教職員研修講座

【佐々木昭弘先生を迎えて 筑波大学附属小学校教諭】

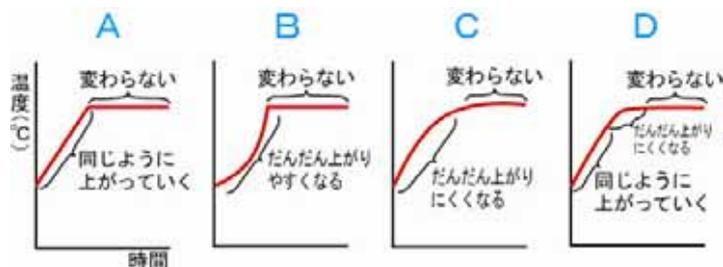
師範授業「水の 3 つの姿」 講演会 「他教科と連携する理科授業」

授業が始まる 10 分前に理科室で 5 年生の子どもたちとご対面。教卓の周りに集まった時の場所や安全面で気をつけることをてきぱきと伝えていきます。わかりやすく明瞭な指示で、子どもたちはすばやく動きます。あっという間に教室全体に一体感が生まれます。

「じゃあ、ノート出して。」と佐々木先生。学習した月日や天気を記入させ、ノートの決まりを伝えていきます。お天気のマークの話やら月の話をしながら、子どもたちの科学の世界を広げます。さりげない話にも無駄がない。見事な仕掛けです。



「4 年生の時に水を温めてお湯を沸かしたのやった？ 水は何度で沸騰する？」と、佐々木先生。子どもたちの反応をみながら、水の温まり方の 4 つのパターンをグラフにしたものを提示します。



A のグラフでは、「同じように上がっていく」という子どもの表現をもとに変化の様子を確認します。次に、「B は、だんだん上がりやすくなる」、「C は、だんだん上がりにくくなる」という表現をもとに、温度変化の違いを明確にしていきます。「一定」という言葉を使った子どもをほめ、大切な表現であることも示していきます。さらに、D のグラフはこれまでの表現を組み合わせることで説明できるようになっており、子どもたちに自己表現の機会を提供します。ヒントをもらった子どもたちは、何とか説明しようと必死で

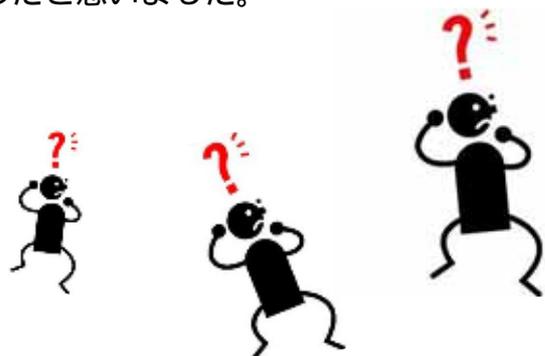
す。子どもの表現を大切にし、それらを組み合わせることで展開される授業の姿。導入の部分だけでも、『子どもを大切にする』『子どもの目線になる』ということの意味がわかった気がしました。

続いて、子ども一人ひとりが持つ「自分の考え」を明確にします。ABCDのどれが正しいと思うのかをはっきりさせるだけでなく、どれくらい自信があるのかを「ぜったい・たぶん・ひょっとしたら」という三段階で明示するのです。首をひねって考える子、板書を見直す子、一点を見つめて考え込む子・・・どの子も一生懸命です。その後、意見交換をして考えを変えるチャンスを与えます。考えを変えるためには、相手の意見を聞かなければなりません。「聞きなさい」ではなく「聞きたい」と思う場を見事に作り上げていくのです。何とも見事な教師の技です。

本時の課題を板書して実験に入ります。「先生と同じスピードで書いてね。」と、書くスピードも指示します。授業のどの瞬間も無駄がない、一分一秒が大切にされているのです。実験前には、「ストップウォッチの人・温度計の人・記録する人」とそれぞれの子どもの役割を明確にします。何をすればいいのか、注意事項は何か、どの子もわかっているので実験がスムーズに進みます。それだけではなく、「ちょっと上がり方が違うよ」「ぜったい100度以上にはならないのかなあ」と気づきや疑問が出てくるのです。

実験の結果をまとめる時間になりました。「そう、正解はDです。でも、理科は終わりじゃないよ。」と先生が言うと、子どもたちは不思議そうな顔で先生を見ます。「問題があったら答えは必ずある。文章で答えを書かなきゃいけないことがたくさんあるんだよ。」と先生が続けると、何をすべきなのか自然に子どもたちに伝わっていきます。教師と子どもの信頼関係は授業の中でつくられるのだと思いました。

最後に、答えのまとめ方を教えてくれました。「まず、はじめ・中・終わりと、3つに分けましょう。どこで切るでしょうか。」と問われると、子どもたちはさっとグラフを3つのタイプに分けます。学習したことが定着しているのです。そして、「国語で文章を書くときは、まず・次に・最後にと、便利な言葉があるんだよ。」と言うと、数人が書き始めました。書きたいという子どもたちの思いが溢れます。よくわかる楽しい授業は、子どもたちの意欲を高め、生き生きした表情を生み出すのだと思いました。



～ 講演会から ～

佐々木先生は、参加者のみなさんからの質問や感想に答える形でご講演いただきました。そのお話の中から興味深い内容をまとめてみました。

Q 予想の段階で、グラフを比較するところがわかりやすかった。解説も的確だった。何か工夫は？

導入で使用した4種類のグラフは、教師が作成したもの。着目させたいことに子どもたちが気づくように仕組んだサンプルである。比較する場面を作ると気づきやすい。理科において自分の気づきを言語化させることは重要である。

Q 的確な指示、目配り、手順、役割分担、結果のまとめ方など、指導のポイントは？

4人の架空の人物(グラフ)を設定する方法は、算数の教科書の導入部分で広く使われている。さんの考えについて自分の意見を述べる形だと、子どもたちは発言しやすくなる。子どもたちの発した言葉には誠実でありたい。教師が都合のよい言葉にかえてしまうのではなく、子ども自身が言葉の表現を変えていけるようにしたい。指示や目配り等については、向山洋一氏の「授業の腕をあげる法則」から学んだ。また、マーチングの全体指導をした経験が授業づくりにつながっている。研究授業をたくさんして経験を積むことが大切である。

Q 授業における言語活動をすすめるためのポイントは？

自然の事物や現象を分けて言語化する。・・・状態変化と水の温度変化を分けて言語化させる。水の状態変化も3つに分けた。

「問い」と「答え」の関係を明確化する。・・・何を問われているのか、問いに対する答えになっているかを確認する。発問では、「あたためると」という言葉を前に出し、観察・実験を通して考えるのだと強調した。



「説明文フォーマット」を取り入れて考察をする。・・・「**まず、次に、最後に**」のパターンを使う。書きやすい状況を作ることが大切である。

Q 子どもたちが安心して授業を受けていた。秘訣は？

指示は明確に。教えるべきことは教え、考えさせることは考えさせる。今、何をやる時なのかを明確にすることで子どもは安心する。書く活動においても、安心して書かせたいなら板書に言葉を残しておく必要がある。黒板の情報に気づいた子をほめることで、他の子どもたちはさらに安心して書けるようになる。

子どもたちを前に集めた時は、表情やつぶやきを大切にしたい時。安全面を徹底したい時も子どもとの距離を縮めるようにしている。

みなさんのアンケートから

師範授業はとても学べるものです。期待以上の成果を得られました。授業についての心がまえ、とらえ方を強く感じられ、自分も生かしていこうと思いました。

授業の中から見える細かな指導が大変役に立ちました。すばらしい師範授業を見せていただき大変勉強になりました。

シンプルでわかりやすい授業内容で「真似をしたい」と思うことばかりでした。

しっかりと計算された授業の組み立てが素晴らしかった。1つ1つのことに意図があり、さすがだと感心した。

子どもへの指示、子どもの動き、思考の深まり 等々が計算しつくされている授業に感心しました。文章化させるときの手だて、指示の仕方など、できるかな と思う部分から取り入れていきたいと思います。

これまで実験結果をまとめるときに言葉を気をつけていたものの「まず 次に そして」を意識したことがあまりなかったのととても勉強になり、自分も取り入れていこうという考えになりました。講演の形がバズセッションの形になり、あれっと思いましたが、グループでの話し合いを元に解説をしていただいたのでたいへんわかりやすく興味深く聴くことができました。

4年・5年と理科の授業をもっていますが、全然基礎知識のないまま、その場しのぎで教えてしまっています。日々反省しています。師範授業は、これからの授業に生かせるヒントがゴロゴロところがあって感心させられました。大変貴重な時間でした。

師範授業では一つひとつの支持がとても的確でわかりやすいため、子どもたちがスムーズに動いていたのがとても参考になりました。自分の授業を振り返ると、いつも考察をさせるときは教師がまとめていくことが多く、子どもたちが自分でまとめたという実感はあまり味わうことができてないなと思います。今日のようなまとめ方であれば、わかりやすく自分でまとめたという実感も味わうことができるのではないかと思います。

佐々木先生の指示、目配り等とても参考になりました。中でもノート指導の中で「問い」「答え」を明確にし、例示をしながら文章を書けるような手だてを講じていることが強く印象に残りました。



御園小学校のみなさん、ご協力いただきありがとうございました。